

令和3年度 第2回朝倉市総合教育会議

日時：令和4年3月15日（火）10：00～11：10

場所：朝倉市役所本庁 別館第1会議室

出席者：構成員	林市長、早野教育長、井手教育委員、内藤教育委員、 鹿毛教育委員、上原教育委員
教育部	池田教育部長、則松教育課長、仲山文化・生涯学習課長、 朝妻教育課筆頭主幹参事、大坪教育課主幹参事 中村教育課総務係長
関係課	安丸保健福祉部長、高岩福祉事務所長、 上村子ども未来課長、隈部商工観光課長
事務局	森山総務部長、佐々木総合政策課長、井上男女共同参画推 進・青少年係長、青木
傍聴者	0名

1 開会

2 市長あいさつ

3 議題

(1) キャリア教育について

4 その他

5 閉会

市長

本日はお忙しいところ、教育長をはじめ教育委員会委員の皆様におかれましては、令和3年度第2回朝倉市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。

皆様には平素から、本市の教育行政にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症第六波により、経済面・家庭での生活面、そして学校現場でも、学校生活・行事・保護者との関わりなどにおいて、今もなお多大な影響を受けていることと察します。

情報化、少子高齢化が進む時代の中で、子どもたちをめぐる課題、例えば人間関係の構築に悩んだり、自己肯定感や将来への希望を持たない子が増えているようなことも聞きます。コロナによる休校、他者との関わり合いにおけるストレス、急激な学習形態の変化等を受けて、そのことが深刻さを増しているような気がします。子どもたちが学ぶ楽しさを体感し、学びへの挑戦を続けるため、子どもに関わっていく家庭、地域、学校の連携が必要であることは、言うまでもありません。こういった理由から、人間関係を育む力、情報活用力、将来を設計したり、意思決定する力など総じて「生きる力」を育むために、小さい頃からのキャリア教育が必要という考え方に立ち、今回の総合教育会議の議題とさせていただきました。

この総合教育会議は、市長である私と教育委員会が、互いに対等な執行機関の立場として、教育分野における課題や教育のあるべき姿について、協議・調整を行う会議でございます。

各種情報を共有し、両部局が連携しながら、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策等を効果的に推進することで、本市の教育行政をよりよい方向へ進めていきたいと考えております。

これから、皆様方と闊達に議論することで、総合教育会議が、市の教育行政の更なる充実・発展に寄与することを期待いたしますとともに、教育長並びに教育委員会の皆様には、この会議を含め、今後とも、市の教育行政のためにお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げます、簡単ではございますが、開会に際しましてのあいさつとさせていただきます。

総合政策課 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題に入ります。</p> <p>これからは、朝倉市総合教育会議設置要領第3条第1項により、林市長に、議長として進めていただきます。</p> <p>林市長、どうぞよろしく願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、次第「3 議題」にありますとおり、協議を行いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>「キャリア教育について」を議題といたします。</p> <p>キャリア教育について議論します。</p> <p>では、教育課から資料の説明をお願いします。</p>
教育課筆頭 主管参事	<p>キャリア教育について朝倉市の現状に即して説明させていただきます。</p> <p>資料にありますのは、ある中学校で取り組まれている学校行事「僕の夢！私の夢！」と題した意見文発表の場の様子です。自分の将来の夢について生徒が、全校生徒、保護者、地域の人たちを前にして発表しています。意見文を見ると、生徒が職業についてどんな職業なのか知識を得ていること、その職業につくために必要な資質について理解していること、その職業の使命感、価値、やりがいといった職業観まで考えていることがわかります。また保育士になりたいという夢やあこがれ、それを叶えるために目標を設定し進路を選択したり、今の自分の生き方を振り返りながら課題を解決しようとしている様子がみてとれます。この様な姿こそがキャリア教育の取り組みを通して目指す子どもの姿です。</p> <p>以前、取り組まれていました進路指導では、生徒たちの進路設計・進路決定といえば、学業成績を判断基準として高校進学や就職を選択していくのが基本的でした。しかし、20世紀後半、社会環境が大きく変化する中、若者自身の勤労観、職業観の未熟さと確立の遅れといった社会人・職業人としての発達をめぐる問題が浮き彫りになりました。こういった背景からキャリア教育は導入されていきます。キャリア教育は子どもたちが将来の夢や目標を実現させようと自分の生き方を振り返りながら、主体的に進路選択できる能力や態度を身に付けることをねらいとした教育です。“一人一人の社会的・職業的自立に向け必</p>

要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す”ことを定義としています。

文部科学省は、キャリア教育の取組を通して育む力を4領域8能力で整理しています。

冒頭で紹介した保育士を目指す中学生は、育成を目指すこれからの能力を将来に向けてしっかりと身に付けていることが分かります。

では、学校では、キャリア教育としての教育活動が実際にどのようにして行われているのか紹介します。中学校で行われているキャリア教育の計画では、1年生から3年生までの間、計画的、系統的に発達段階を考慮しながら各取組を位置付けています。中には全学年で取り組む教育内容もあります。どの教育内容もキャリア教育で目指す力を子どもたちに育成できるよう、啓発的な体験活動を実施しています。

例えば、資料にある夢探し講座では、社会で活躍される方々から、なぜ今の職業を選んだのか、今の職業にはどんなすばらしさや苦勞があるのか、どのような努力をして苦勞を乗り越えてきたのかなど普段体験出来ない話を聞ける取組です。これ以外にもパイロットやプロスポーツ選手、政治家などの方々にも講師を務めていただいております。参加した子どもたちの感想から、今の自分の生き方を振り返り勉強することの大切さに気づいたり、夢をかなえたいと目標を掲げたりできていることが分かります。資料の「ようこそ先輩」は夢や目標を叶えるためには、近い将来必ずぶつかる壁に負けずに乗り越える努力が必要であることを卒業生から在校生に向けてエールを送ってもらう取組です。子どもたちは身近な先輩から送られる言葉に、まずは目の前の勉強や部活を頑張らなければならないこと、ひとりでは乗り越えられないことを感じたり、夢を叶えようとすることの素晴らしさや苦勞の現実味を感じたりしています。これら以外にも高校生活や職業を実際に体験したり、学ぶ姿勢を確立するために様々な講座を設けたり、合宿して勉強に励ませたりと、取組を工夫しながら子どもたちのキャリア発達を図っています。また、これらの体験的な活動を意味付けできるよう道徳や特別活動も計画的に位置付けて取り組んでいます。

このようにキャリア教育に取り組んでいることで、冒頭で紹介したような子どもたちが朝倉市では育っています。キャリア

発達を遂げた卒業生達が朝倉市を支える一人として育ててくれたらと願わんばかりです。しかし、学校で取り組まれているキャリア教育がより一層効果的なものになるためには、地域で質の高いキャリアモデルがあることが重要です。子どもたちがこの朝倉市にどのようなキャリアモデルを見出し夢を描くのか、朝倉市でこんな仕事をやってみたい、こんなことを成し遂げてみたい、そのためにこんな努力をしたい、あの高校に行きあんな高校生になりたい、そして大学で夢の実現のために学び続けたいと思える子どもたちに育てることが大切です。そして、そうできることがキャリア教育の位置づけのためにはとても重要です。先だっで行われました高校生の提言から聞いて取れるように朝倉市の将来をワクワクして話せるような子どもたちをもっと育てていけたらと考えています。

市長

キャリア教育について、説明がありました。
ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。

井手委員

キャリア教育とは何かと聞かれたとき、社会的、職業的に自立していくことだと思います。さらに端的に言えば生きていく力を子どもたちが身に付けていくことではないかと思います。

先日、杷木中学校の卒業式後に、学校運営協議会が行われました。杷木中学校では体育祭や文化祭などの大きな行事の後に学校運営協議会が行われています。中学校の運営協議会のメンバーには杷木地域内で旧小学校区の各コミュニティ会長が、小学校の運営協議会には各コミュニティ協議会事務局長が参加されており、活発な意見交流がなされ有意義なものだと思いました。また、運営協議会の資料として渡された中学校新聞に、卒業生のそれぞれの将来の夢が写真と共に載っていました。その中で何人かが「自分の住む町に貢献できる人間になりたい」と書いており、深いところまでキャリア教育が行われていると感じました。

杷木中学校区では保育所、小学校、中学校、光陽高校が連携したPTA連絡協議会があり、そのような繋がりをつくっていくことも今後は求められるのではないかと思います。

内藤委員

キャリア教育とは何かと考えると一人ひとりが自分のキャリ

	<p>アを深めていくことで、職業においてもそうですが人生にとって、社会にとって貢献できる人をつくっていくことだと思います。市が目指していくキャリア教育とはどういったものなのか市民にアピールすることも大事だと思います。また、子どもたちに朝倉市に残ってほしいと考えるのは当然のことですが、子どもたちを育てる側の自分たちも育たなくてはいけないと思います。私は子どもたちが育つということは、全市民が育つということと意識しています。</p> <p>高校とのタイアップについてですが、中学生が自分の方針を考え、行き先の高校を決める中で、市内高校への進学希望者が少ない現状があります。このことについては高校の先生や保護者の方々と共に考えていかなければならないことで、その交流、やり方というものを今まで以上に進めていければと思います。高校までを含めた教育というのは今も取り組まれているのですが、このままでいいのか危惧している面もあります。</p>
市長	<p>委員からご意見がありました。行政側からは何かありませんか。</p>
総合政策課長	<p>朝倉東高校が株式会社を設立されたことについて、紹介をします。</p> <p>令和4年2月22日に設立総会が行われ、令和4年度より実質的な活動がされるかと思われませんが、オリジナル商品の開発・販売、ネットショップの運営管理、パソコンプログラミング教室の企画・運営、観光サイトの企画制作を行おうとしております。運営資金については商業学科の生徒が株式を一人2,000円で購入し、卒業時には返還されます。</p>
教育長	<p>今、朝倉東高校の紹介があったように朝倉市の三高校では、今まで様々な取組をされており、今でも続いておりますが、それらの取組を地元の小中学校では知らない部分もあります。それぞれが連携してひとりでも多く受験してもらいたいという考えもあり、今まで以上に情報や取組を発信し、相互交流を盛んにしなければならないと考えています。</p>
市長	<p>杷木中学校の話が井手委員からありましたように、保育園、</p>

	<p>小中学校、高校と年に3回ほど交流していることを私も存じております。そういったことが学校だけではなく、家庭、地域と一緒にあってキャリア教育を理解し、応援していく取組が大事だと思います。</p>
鹿毛委員	<p>子どもたちは幼い頃から夢を持っている子もいれば、将来の夢が決まらない子もいると思います。いろいろな専門職を職場体験などを増やして、子どもたちに選択肢を与えていただけると朝倉市内でもいろんな仕事があることが分かり、やってみたいという気持ちになると思います。</p>
上原委員	<p>キャリア教育の一番の目的は、将来的に地域を担う人材確保をどのようにしていくかということに繋がるのではないかと思います。そのためにはキャリアモデルの育成または人材バンクのようなものを作ることも方法ではないかと感じました。加えて、地域に残る人たちを増やしていくためには、小中学校で地域の自然、歴史、文化、産業などを学ぶ教育も必要だと感じました。学習については教育委員会で出来ることかと思いますが、地域との連携、地域との密着性を持たせるためには行政の力も必要ではないかと思えます。</p> <p>先日教育委員会の中で、高校を卒業したら朝倉市からの転出が割と多いとの説明がありました。男性は大学卒業後に若干戻ってくる傾向にあるようですが、女性は少ないとのことでしたので、朝倉市に戻ってきていただくよう、朝倉市の良さをキャリア教育の中に充分盛り込んでいく必要があると感じました。</p>
市長	<p>教育委員会よりご意見がありました。これに対し、現状と今後の方針について聞かせてください。</p>
教育課主管 参事	<p>キャリア教育の現状について、小学校の現状から話をさせていただきます。地元の歴史、文化、産業については、1、2年生に生活科の学習があり、3年生以上には総合的な学習の時間が平成10年から取り組まれています。朝倉市の教育施策の中にも郷土愛という言葉が入っており、地元の良さについてはこれまでも学習をしてきています。加えて自分自身の良さも知らなくてはならず、また、友達との関わりも作らなくてはなりま</p>

<p>教育課筆頭 主幹参事</p>	<p>せん。高学年になると委員会活動をとおして、人の役に立つことはすばらしいことだという、将来に向けた学習も進めており、これらについては今後も取り組んでいきます。</p> <p>中学校においては地域の魅力を十分に理解してもらうため、地域の教育資源について可能な限り教材化を図り、どの中学校におきましても総合的な学習の時間を基軸にしながら地域の魅力を学ぶ時間を設けています。多いところでは50時間ほど取り組む学校もあります。</p> <p>また、職場体験においては各学校でおよそ30から40ほどの受け先を準備し、取り組んでいます。朝倉市の現状では出会えない職業もありますので、そのような職業については改めて出会える機会を設けおり、例えば、アナウンサー、パイロットなどの職業は違う形で出会えるような工夫もしております。</p> <p>しかし、高校との連携の場が十分に取れていないのが現在の課題です。例えば、本日の会議にも市内三高校の代表者が出席されるなど、中学校が伝えたいことなどをさらに議論出来る機会ができればと思います。</p>
<p>教育課長</p>	<p>今、説明がありましたとおり高校との連携は進めていかなければならないテーマだと考えています。可能ならば総合教育会議のメンバーを広げて、例えば小中学校の校長会会長、高校三校の代表者にオブザーバーとして参加していただければ、もっと闊達な議論が出来るのではないかと考えております。キャリア教育というのは小学校、中学校それぞれのアプローチが年齢層によって違い、取組を行っておりますので、そこからさらに高校ではどのようにして伸ばしていかれるのかということ、また、子どもたちがいずれ朝倉市に戻って来て活躍していただくという視点で、どのようなアプローチが必要なのか、ということを経済教育会議の場に限らず議論できる場があれば新たな展開が見えるのではないかと思います。</p>
<p>上原委員</p>	<p>朝倉市では、例えば高校生の提言をされているかと思いますが、中学生の部を作ってみるなどそのように考えてみるのもおもしろいかと思います。また、先日、百人一首弁当作りに関わりましたが、そのようなプロジェクトを高校だけではなく、中</p>

	<p>学校にも呼びかけるなど試してみるのもいいのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>高校生の提言は10年経過していますが、本日の議論している内容からしても意義があることで、今後も実施していくこととしています。中学生の提言活動というご意見がありました。が、どう思いますか。</p>
<p>教育長</p>	<p>本年度から中学生を各学校2名ずつ傍聴席より高校生の提言に参加させていただきました。この意図としては、将来的に中学生にも何らかの形で市の高校生の話し合いの場に参加させたいという考えにあります。その前段として、中学校6校の生徒会代表者を集めての会議を第一段階とし、発表の場を設けるなど、いくつかのステップを踏んで進めていきたいということを校長会会長と話をしています。</p>
<p>内藤委員</p>	<p>会議に関してですが、学校を視察した際に、杷木小学校と嵯城小学校がリモートでの会議をしていました。リモートであればセッティングの時間や労力を削減できるので、これを活用することで小中高の交流もスムーズにいくのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>現在、コロナ禍の中でタブレットを使った教育指導に取り組んでいただいていることに加え、リモート会議が学校の中だけでなく、社会的に大きく進んでいる実態もあります。こういったものを活用しながら、高校の校長先生または代表者、中学校の校長先生が参加するような話し合いの場をつくっていったらいいのではというご意見もありました。このことについては教育委員会と行政とで具体的に検討して行きましょう。</p> <p>行政側からも、何か意見があればお願いします。</p>
<p>子ども未来課長</p>	<p>保育所の取組を紹介させていただきます。公立保育所の取組では、異文化交流としてふれあい教育をしています。これはネイティブスピーカーによって英会話やゲーム等を月1回公立保育所8カ所で行っています。ねらいとしては、グローバル社会に備えて旅立つというよりも、身近に異文化に触れてもらい、</p>

	<p>生きる力の幅を広げてもらおうというものです。また、地産地消として食育についてですが、園内で菜園を作って、それを料理に使ったり、地元の食材を提供し、その食材について調理員が各教室を回っての声かけや、担任の保育士が教えることによって食材を通して生きる力や地元愛を育んでいます。</p>
<p>商工観光課長</p>	<p>商工観光課では、連携している福岡女学院大学とインターンシップの受け入れという形で職業体験をしています。通常の職業体験と違う点は、民間企業の職業体験では1日から2日で終了しますが、こちらの職業体験では女学院大学との連携により、6回ほどの職場体験をすることで単位取得のできる授業として認めていただいているところまで連携が深まっています。昨年度はコロナ禍により直接こちらに訪れての職場体験ができなかったため、6回ほどリモートでのやり取りをしました。キャリア教育の参考になればと思い、事例の報告とさせていただきます。</p>
<p>教育部長</p>	<p>キャリア教育についてですが、生徒にとっては選ぶ側、市や高校としては選ばれる側であり、選ばれる側にとって魅力あるものを提供していかなければなりません。選択肢を増やしてほしいというご意見がありましたように、朝倉市として誇れる事業、朝倉市に残って活躍してほしいという展望を紹介してほしいという考えが学校や児童生徒にはあると思います。市が取り組んでいる事業として農業の独自産業がどのように発展し、いかに将来のある事業に発展できるのか資料提供したり、観光についても、このような資源があり、市外から迎え入れるためにこのような事業をしたらよいといったことを市から発信していただけたらよいのではと考えております。高校にしても、先ほど朝倉東高校の話がありましたが、朝倉市で自分たちの株式会社を設立したり、起業ができるといった展望や夢を持っていただけるメニューを提供していただけたらと思います。</p>
<p>福祉事務所長</p>	<p>福祉事務所から、障がい児の就労についての話をします。障がい児の就職につきましては、特別支援学校から一般企業へ就職する場合は市の福祉事務所が関わることはありませんが、一般企業等への就職を希望しているけれどすぐには難しいという</p>

場合や一般企業等への就職が困難な場合は障がい福祉支援というものを行っています。内容は就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援と3つの支援がありまして、この支援をするにあたっては、特別支援学校に対して進路を考える時期に卒業後の支援についての協議を行っています。就労移行支援は、一般企業等への就職を希望しているがすぐには難しい場合に、就労に必要な知識及び能力の向上に必要な訓練を行うサービスをしています。就労継続支援は、一般企業に就職が困難な方に就労の機会を提供するとともに、必要な知識や能力の向上に必要な訓練を行うサービスをしています。就労継続支援にはA型・B型とあり、A型については会社で働くのは難しいが仕事をする能力はある方を、支援する事業所と雇用契約を結び就労していただくというものです。B型については事業所と雇用契約を結ばない形ですが、会社で働くのは難しいが手作業が向いている方に対して行うサービスです。就労定着支援は、支援事業所から就労された方に対して就労が続けて行けるような企業や自宅に訪問して相談を受けたりしながら定着させていくサービスです。就労支援のB型については作った商品や手芸品などの販売会を、以前は年に2回、市内の道の駅で行っていましたが、現在のコロナ禍では本庁舎で年に2回行っています。販売についてはすぐに売り切れたりしますが、市内や市外に広がってはならず、どのように作った物を販売していくのか、どのように障がい者の賃金に反映させていくのかということも含めて今後も支援をしていかなければならないと考えています。

市長

最初にキャリア教育についての説明の中でキャリアモデルなどを地域が提供すべきだとありました。また、このキャリア教育を学校と直接関係されるPTA、地域のコミュニティ、子どもの健全育成に関わる方に知って頂きたいと意見がありました。が、このことについてはどうですか。

教育長

朝倉市のキャリア教育をどうしていくか、教育委員会として考えていかなければなりません。各部署と連携して、骨子を作り、各方面の協力をいただきながら市内に向けてアピールしていきたいと考えております。

市長	行政も連携し、学校側と協力して進めていきたいと思っています。
内藤委員	キャリア教育という言葉を日本語で表すとどのような表現になりますか。
教育長	以前では進路学習でしたが、今では生き方学習という言い方になるかと思えます。
市長	ご意見等いただきましてありがとうございます。 朝倉の教育10カ条が作られているようですが、教育長からご提示いただけますか。
教育長	令和の教育10訓として、朝倉市の小中学校の子どもたちや教職員に向けて、令和の時代の学校教育で大事にしたいことを10項目で考え、教育委員会の中で協議させていただいております。まだ正式なものではありませんが、例えば、PTA宣言にありました“早寝早起き朝ごはん”などに加え、令和の時代の新しい教育、新しい項目を3つほど追加し、各学校、ご家庭で取り組んでいただくものを、4月1日付でまずは学校に発信していけたらと考えております。
市長	朝倉市の人口減少の対応も考えていく中で、教育は大きな役割を担っていくと思えます。そういった意味合いからもいろいろな情報交換や議論をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。 他にご意見がないようでしたら、本日の議題を終了とさせていただきます。 ご協力ありがとうございました。
総合政策課長	さまざまなご意見ありがとうございました。 この会のあり方、進め方についても再度検討していきたいと思えます。 次第「4 その他」です。 事務局からは特にございませんが皆様方からは何かありますか。

	<p>特にないようでしたら閉会とさせていただきます。 これもちまして、令和3年度第2回総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。</p>
--	--